

和歌山だより

平成26年12月号



湯の峰温泉「つぼ湯」(田辺市)

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1～P3
2. 和歌山県政トピックス… P4～P9
3. ふるさと歳時記…………… P10～P11

今年も御愛読ありがとうございました！



またまた仕事だ

知事選挙を終えて、県庁に初登庁した時に私を出迎えてくれた多くの県の職員に対して申し上げた言葉です。

1回めの時は「さあ仕事だ」と申しました。2回めの時は「また仕事だ」と申しました。3回めの今回は「またまた仕事だ」です。

和歌山県の抱えている未解決の、あるいは進んできたが未完成の課題を早期に解決するんだと県民の皆さんに訴えて、また知事に選んでいただいた私の切なる思いです。

そして、選挙戦の最中、多くの方々に声援や励ましをいただきましたが、それらはすべて県民の皆様の今後の県政への期待と和歌山の未来への願いの表れだと私は思います。

大分整ってきたとはいえ、まだまだ完成していないインフラ、対策途上の地震津波対策、インフラの完成によって拡大するチャンスを活かすべき各産業の振興、都市や中山間地の再生、待ったなしの高齢者対策、少子化対策、そして教育、医療。さらには県民を代表して、和歌山県のために是非とも必要なことがらの実現のため、政府を動かしていかなければなりませんし、販路開拓や観光客の誘致に外国の力も取り入れなければなりません。県民総参加の楽しい国体もいよいよです。

解決しなければならない課題はまだまだあるけれど、知事選の時にいただいた県民の皆様の励ましを心の糧として、全力投球をして参りたいと思います。



12/1 知事選挙後の初登庁にて

< 県議会 12月定例会における就任挨拶 >

私は、先の知事選挙におきまして、県民の皆様方から多くの御支持をいただき、引き続き県政を担当させていただくことになりました。

今回の選挙では、和歌山県の抱える様々な課題をこれまで数多く解決してきた延長線上で、まだまだ残された課題を全力で早期に解決することを是非御支持をいただきたいということを訴えて参りました。

県内をくまなく回りました。都市部の商店街、山間の過疎地域、農業、林業、漁業、工場など県民の皆様が働いておられる現場などで、多くの方々とお会いし、励ましのお言葉をかけていただくと同時に、景気や雇用といった県民生活に深く関わる切実な声を数多くいただきました。構造的な不利な条件の中でも、お仕事に、日々の生活に懸命に頑張っておられる県民の皆様のお姿に私は心を打たれ、自分も頑張らなければならないと、大いに勇気をいただいたところであります。

県民の皆様から信任をいただきました今、県民の皆様のお熱き期待に応えるため、全身全霊をもって、県政を推進していく所存であります。

三期目の県政はこれまでの積み重ねを踏まえ、より一層の改革のため、県政をさらに新たに切り拓く覚悟で進めて参りたいと考えております。

今、和歌山県の現状は、決して安心できるものではありません。

高速道路など基盤整備はまだ途上にあり、経済も脆弱性を払拭したとは言えない状況であります。都市や地域の停滞を止め、活性化させるまでには至っておりません。

防災・減災対策の充実、特に地震・津波と本格的に戦わなければなりません。また、治山・治水に力を入れなければなりません。

少子化が進み、人口減少に歯止めがかからず、高齢者対策など県政の課題はまだまだ山積しております。そして、来年の「紀の国わかやま国体・わかやま大会」を是非とも成功させ、県民皆様が誇りと自信を持てるよう、全国に和歌山の名をとどろかせていきたいと考えております。もっともっと、県民の皆様が、住んで良かったと実感できる和歌山にしたいという思いが強くなるばかりでございます。

このような課題山積の現状に対し、私は、逃げることなく果敢に挑戦し、和歌山を元気にするため、公約の「7つの政策」について一生懸命取り組み、「あたたかい改革」を推進して参ります。

第一に、産業活動を盛んにし、観光を振興し、働く場をさらに増やして参ります。

中小企業の成長を促すため、新分野への進出、新技術・新商品開発、販路開拓などを支援するとともに、支援情報のきめ細かな提供により、企業のチャレンジする意欲を喚起するよう応援をして参ります。同時に知事就任前の25年間を上回る130件を超える実績を上げた企業誘致を一層推進して参ります。また、農林水産業については、農地の集積・流動化により農業の規模拡大と新規参入を促進し、高品質果実の生産・流通体制の拡充による競争力の強化に力を注ぐとともに、今後、成長が期待される施設園芸を一層推進して参ります。林業は、作業道の整備などによる低コスト林業と紀州材需要拡大を、水産業は、漁獲量の減少対策として資源管理漁業の仕組みの導入、種苗生産・放流による磯根漁場の再生に取り組んで参ります。

観光振興につきましては、「高野山開創1200年」、NHK大河ドラマ「真田丸」などにあわせて観光キャンペーンを実施し、世界遺産や温泉などの観光資源をテーマごとに分類して、売り出すとともに、一層の「おもてなし」の向上に努めて参ります。また、案内表示や消費税免税店の拡充などによる、外国人観光客の受入環境の整備により誘客を推進して参ります。

第二に、地震津波、風水害などあらゆる災害から県民の命を守るための対策に取り組んで参ります。これまで、「津波から命だけは絶対に助ける」を目標に、全国トップレベルの防災対策に取り組んで参りました。特に、東海・東南海・南海三連動地震時の津波避難困難地域を抽出し、避難経路の詳細な設定、堤防の強化など、概ね10年で取り組む対策をまとめた「津波から『逃げ切る！』支援対策プログラム」について着実に実施して参ります。それとともに、南海トラフ巨大地震の津波避難困難地域については、高台移転等の地域改造を含めた対策について、今後関係市町と協議し、万全の対策を目指して参ります。

同時に、現在進行中の中小河川の改修、ため池対策など風水害対策も急ぎたいと思います。

第三に、県民の生活を支えるとともに、発展のチャンスを増やしていく高速道路、川筋ネットワーク道路等のインフラの充実を実現して参ります。

京奈和自動車道県内全線と近畿自動車道の田辺・すさみ間については、和歌山国体までの完成に向け、また、すさみ以南の早期実現並びに有田・田辺間4車線化に向け、国や関係機関に対して強く訴えて、県民の悲願の実現に努めて参ります。

また、高速道路の整備効果を県内全域に波及させるため、主要河川沿いの幹線

道路「川筋ネットワーク道路」について、平成29年度までの概成を目標に取り組んで参ります。

府県間道路や懸案の都市計画道路の改良を急ぎ、日常生活に欠かせない生活道路についても、防災や交通安全などに配慮して着実に整備を進めて参ります。

第四に、町のにぎわいを取り戻し、都市の再生を図るとともに、過疎地域等における人々の暮らしを守って参ります。

都市部では、外縁部の拡大に繋がるような郊外の開発をこの辺で抑制し、空洞化した市街地の再開発を進めることが必要と考えます。コンパクトシティの実現に向け、公共交通ネットワークの再構築を含めた今後のまちづくり計画の策定について、県と市町が協力して進めていく所存であります。

一方、過疎地域においては、過疎集落支援総合対策を引き続き進めるとともに、都市住民の移住・二地域居住を促進し、地域の活性化、集落機能の維持を図るため、空き家を改修して賃貸借を仲介するための組織を作りたいと考えております。

さらに人口が減少しても、市町村の業務が行政サービス水準の低下を招かずに、持続的・効率的に遂行できるよう、県による事務の補完などについて検討を行って参ります。

第五に、医療や高齢者・障害者福祉の充実、子育てへの支援、危険ドラッグなど反社会的行為の撲滅、治安の向上など県民の安心・安全を守って参ります。

高齢者が地域で安心した生活を送るため、「見守り」、「健康」、「安心」、「産業化」を4本の柱とした「わかやまの老後に安心を届ける政策」を総合的に推進し、介護を要する高齢者がその状況に応じて過ごせるよう、施設整備と介護サービスの充実、在宅介護サービスの整備を進めて参ります。また、結婚、妊娠、出産、子育てまで切れ目のない少子化対策に一層取り組んで参ります。

第六に、子どもたちが、元気でいい人に育っていくよう、学力の向上、道徳教育の充実など教育に力を入れて参ります。

学習につまずきが見られる生徒への個別指導など補充学習を徹底していきます。全教員に教え方の研修を実施するとともに、優れた教育実践力を持つ退職教員を派遣することで、教員の教える力を強化します。これらの取組がすべての教室に浸透するように各学校の実態を教室単位まで徹底して把握し、指導して参ります。

第七に、紀の国わかやま国体、紀の国わかやま大会を成功させるとともに、女性も男性もお年寄りも、すべての県民の皆様が、仕事も、スポーツや文化活動も、様々な市民活動を楽しんで行えるような豊かで元気のある県を目指します。

特に、国体が、県民総参加で、夢と感動を共有できる大会となり、また、来訪者に県内で気持ちよく過ごしていただくための「おもてなし」運動にも一層取り組んで参ります。

国体での男女総合優勝を勝ち取ることを目指して頑張ります。

私は、県民の幸福を第一に考え、県民の皆様が和歌山県に生まれ、暮らして本当によかったと思える故郷和歌山を創造するため、これまで取り組んできたことをさらにグレードアップして続けていきたいと思っております。

最後にこのような県政を一生懸命やっけていくにあたって、一つのプレゼントがありました。

和歌山のパンダが、また2匹子どもが生まれたそうであります。

これを吉兆として、今後頑張っていくようにいたしますので、皆様どうぞご指導の程よろしくお願い申し上げます。

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●日本で唯一！2015年に訪れるべき世界20選に高野山が選ばれました

・1888年に地理学の普及のためにアメリカで設立された歴史ある団体「ナショナル・ジオグラフィック協会」が発行する、発行部数70万部を誇る世界大手旅行誌のひとつ「NATIONAL GEOGRAPHIC TRAVELER」の最新号(2014/12月、2015/1月号)において、“Best of the World-20 Place You Should See in 2015”(2015年に訪れるべき世界のベスト20の場所)の一つとして、高野山が選ばれました。



・高野山は日本国内で唯一の選出であることはもちろん、ほかにはフランスのコルシカ島、モン・サン＝ミッシェル、スイスのツェルマットなど世界を代表する観光地とともに選ばれました。記事の中で高野山は、816年に弘法大師空海が開いた真言密教の聖地であること、大阪から2時間というアクセスのよい立地にありながら、厳格にその神秘性を保ち続けていること、宿坊で勤行などユニークな体験ができること、2015年は高野山開創1200年という記念の年であることなどが紹介されています。

・1984年創刊のこの雑誌は、世界14か国で発売され総読者数は450万人にもものぼります。卓越した写真と充実した記事で定評のある当誌への今回の記事掲載により、今後さらなる外国人観光客の訪問が期待されます。

・来年開創1200年を迎える高野山では、4月2日から5月21日までの50日間、大法会が執り行われます。そして、この期間中に限り、金堂御本尊が特別開帳されます。これまで御開帳されたという記録が残っておらず、高野山の長い歴史の中で、まさに歴史的瞬間です。このほか、霊宝館では、弘法大師が高野山に飛来したという伝承を持つ「飛行三鈷杵」、名仏師快慶作の「孔雀明王像」等が展示されます。記念大法会を中心に、その歴史、魅力が伝えられる催事の数々が予定されていますので、皆さんも是非高野山にお越しください。

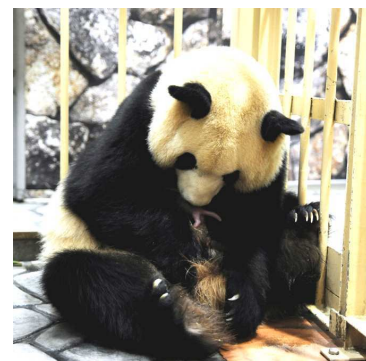
●白浜のジャイアントパンダ「良浜」が双子の赤ちゃんを出産！！

・12月2日の夜、アドベンチャーワールド(白浜町)のパンダ「良浜(らうひん)」が、元気な双子のメスの赤ちゃん(181gと186g)を出産しました。父親は同じく同園に暮らす22歳の「永明(えいめい)」です。

・良浜は同園生まれの14歳で、双子の出産は平成20年、平成22年に続き3度目となり、平成24年の1頭と合わせて7頭の母親となりました。また、飼育頭数も7頭となり中国以外では世界最多となりました。

・現在、母子ともに元気ですが、赤ちゃんの一般公開時期は、母子の様子を見ながら同園から発表される予定です。公開後は是非、かわいい赤ちゃんパンダに会いに来てください。

アドベンチャーワールドホームページ <http://aws-s.com/>



●わかやま版「過疎集落支援総合対策」事業計画決定！

・県では平成22年から全国に先駆け、県が過疎集落に飛び込んで、地域の特性を生かした過疎対策を現場で住民の方々とともに考える「過疎集落支総合対策」事業に取り組んできました。この度、長谷毛原生活圏(紀美野町)における「地域内資源を活用した安心・元気な集落づくり！」が13箇所目の計画として決定されました。全体事業費18,766千円のうち、県が7,262千円を支援することとなります。

・この地域では、特産品のクレソン、山椒のほか宿泊施設「たまゆらの里」等の地域内資源がありますが、それらが地域内外交流や誘客になかなか結び付いておらず、少子高齢化の進行や耕作放棄地の増加による地域の衰退という課題があります。また、移住希望者の受け皿となる施設がないため、移住が推進できていない状況にあります。



・そこで、生きがいつくりや地域内外との交流対策として、耕作放棄地を活用しバーベキュー用食材やブルーベリーを生産し、「たまゆらの里」に販売するとともに、都市部や地域内での軽トラ市、周辺の直売所で販売します。また、「たまゆらの里」と連携し、山菜採り、田植え、鮎・アマゴ釣り等の体験メニューを実施し、地域への誘客を図ります。さらに、木造の「毛原小学校(旧校舎)」を地域住民自らが交流拠点として再生し、地域にゆかりのある漫画や陶芸等の専門家が講師となり「ふるさと教室」を開催します。こうした取組を通じて、地域の自立を目指します。

・定住促進や文化の振興対策としては、移住希望者のために、空き家の掘り起こしや貸借交渉を寄合会が実施し定住をサポートします。また、元教員が中心となり伝統文化を継承・保存するための教材の作成や、高齢者と小中高等学校生徒が伝統芸能を通じた世代間交流などを実施するほか、高齢者のための緊急時搬送体制確立などにも取り組み、地域の活気を取り戻します。

●津波防災講演会を開催

・11月2日、海南市民交流センターにおいて、県・県教育委員会・海南市の主催で、津波防災講演会を開催しました。この講演会は、南海トラフで起こるとされている地震や津波に対し、家庭そして地域としていかに向き合っていくべきかを考え、防災意識を高めていくことを目的に開催したものです。

・約500人が参加する中、群馬大学 片田 敏孝教授に「巨大津波想定に向かい合う防災を考える～海と共存する文化を築く地域防災」と題し、基調講演をいただきました。片田教授は、釜石市で取り組まれた防災教育の実例を踏まえ、「子どもたちが責任を持って自分の命を守る人間になるよう、大人たちが自らの行動で導いていかなければならない。」と参加者に訴えかけました。そのほか、小中学生が作成した防災マップなどの防災学習の取組についての展示も行われました。



・閉会に当たり、仁坂知事は、「一人の犠牲も出さないという決意で防災対策を進めていくので、県民の皆さんも地震や津波から命を守るため、住宅の耐震化や早期避難を実行してください。」と挨拶しました。この行事は、平成23年に制定された「津波対策の推進に関する法律」において「津波防災の日」と定められた11月5日に合わせて開催しているもので、今回が4回目となりました。

●株式会社 早和果樹園が農林水産大臣賞を受賞

・11月25日、日本橋三井ホール(東京都中央区)において、「第2回6次産業化推進シンポジウム」(主催：野村アグリプランニング&アドバイザー株式会社、協賛：農林水産省)が開催され、株式会社 早和果樹園(有田市)が6次産業化優良事列表彰で最高位の農林水産大臣賞を受賞しました。これは、農林水産事業者等の6次産業化への意欲を喚起するため、地域内、地域の枠を超えて連携・ネットワークを構築して6次産業化に取り組んでいる団体や個人を表彰するもので、本年は、全国から50事例の応募がある中で、書類選考や現地調査など3回の審査を経て選定されました。



・表彰を受けた(株)早和果樹園 秋竹 新吾代表取締役は、「会社がこれから成長していく時期にこの賞をいただけたのは会社にとっても従業員にとっても力になる。基幹産業のみかんに付加価値を付け、地域に貢献するリーディングカンパニーとなっていきたい。」と、喜びの言葉と今後の抱負を述べました。

・6次産業化とは、1次産業である農林水産業者が2次産業の加工と3次産業の流通・販売までを一体的に取り組むことで、地域資源を活用した新たな産業の創出が生まれ、県でも6次産業化の取組を支援しているところです。

・(株)早和果樹園では、みかんの糖度・味にこだわった高付加価値みかんジュース「味一しぼり」を開発し、高級百貨店等で販売する一方で、値頃感のあるみかんジュース「飲むみかん」を開発・販売しています。このような付加価値の高い加工を行うことにより、通常5～7円にしかならなかった加工用みかんを25～30円で買い取るなど、みかん産地の活性化にも貢献しています。こうした取組が審査項目である、経営規模、収益性、イノベーション、地域貢献・社会貢献、今後の発展性等において、総合的に高い評価を得ました。

・商品のお買い求め等はこちらを御覧ください。<http://sowakajuen.com/>

●株式会社ジューアップキャリアセンターが「企業の森」に係る協定に調印

・11月4日、企業の人材育成・組織開発コンサルティング、企業の人材採用コンサルティング事業を展開している株式会社 ジューアップキャリアセンター(東京都中央区)が、県の進める「企業の森」事業に参加していただけることとなり、調印式を開催しました。



・「企業の森」は、企業や労働組合などの方々にCSRや社会環境貢献活動、地域との交流活動の一環として県内の森林環境保全に様々な形で取り組んでいただく事業で、調印式において仁坂知事は、「企業の森は和歌山県が自慢にしているプロジェクト。御社のような立派な会社の方に時々来ていただき、木を植えていただいたりしながら地元の方々と交流をしていただくことは非常に嬉しい。」とお礼を述べました。

・(株)ジューアップキャリアセンターは、高野山開創1200年を契機に今後10年間にわたり、田辺市において「心海の森」として植栽木の育成に取り組みます。

○「心海の森」概要

実施地：田辺市龍神村広井原の山林 約0.5ha

植栽樹種：ヤマザクラ、イロハモミジ、ケヤキ、クヌギ、ウバメガシ等約1,000本

活動：社員や会員の家族及び一般参加者が植栽や下刈り等の作業に参加

●紀州梅バーガーが日本一を獲得！！

・11月8日と9日の2日間、鳥取県大山町において、日本最大級のご当地バーガーイベント「とっとりバーガーフェスタ2014 全国ご当地バーガーグランプリ」が開催され、全国から30団体が参加する中、株式会社 カワ(広川町)の「紀州梅バーガー」が、見事日本一に輝きました。



・1粒丸ごとのはちみつ南高梅のほか、紀州うめどりのチキンカツ、梅ピクルス入りのタルタルソースなど和歌山のおいしいがいっぱい詰まった味と、地域で力を合わせて取り組んできた「紀州梅バーガー」への熱い思いを(株)カワがアピールしその姿勢が高く評価されました。来場者による人気投票と6名の審査員による審査の結果、他の強豪チームを抑え堂々の1位を獲得し、2日間で用意した1,200食は好評のうちに完売となりました。



・県では、食品メーカー等と連携し、健康づくりにも役立つ「和歌山の梅」を全世界に発信したいと考えています。その一環として、食品加工会社や飲食店等で構成する紀州梅バーガー開発研究会に参加し、ハンバーガーと「梅」をマッチングさせた「紀州梅バーガー」の開発・商品化に取り組んできました。

・7月号でもお知らせしましたが、今年6月から、(株)ローソン、(株)カワ、肉のまる彦本店から3商品が順次発売され、(株)ローソンは好評のうちに販売を終了し、肉のまる彦本店は現在も販売中です。(株)カワの紀州梅バーガーは7月1日から2ヶ月間限定で販売したところ、大好評につき全16店舗にて継続販売中です。「和歌山の美味しい！！を凝縮」をコンセプトに、梅の持つ健康イメージを活かしつつ、ベーカリー企業として開発したこだわりのバンズに和歌山自慢の食材をふんだんに盛り込んでいます。

・皆さんも、和歌山にお越しの際は、日本一の「紀州梅バーガー」を是非御賞味ください。

HPはこちら→http://bakery.e-kawa.co.jp/event/tottori_no1.html

●「たっちょほねく井」が金賞受賞

・有田市の和食店「しんまち」で提供されているご当地グルメ「たっちょほねく井」が、第1回全国井グランプリ(主催：全国井連盟)において金賞を受賞しました。この賞は、全国井連盟が牛井や天井など全11部門で井を募集し、そのうちご当地井部門において、応募約130店舗から金賞の10店舗が選ばれたものです。

・「たっちょ」は有田地方の方言でタチウオのことで、「ほねく」はタチウオを骨ごと砕いたすり身の揚げ物のことです。この「ほねく」をタマネギと合わせてかき揚げにし、卵でとじてカツオ出汁のあんをかけたのが、たっちょほねく井です。有田市では、有田たっちょほねく井食べよら会が発足され、この井が開発されました。

・たっちょほねく井を食べられるお店は何店舗かありますので、有田市にお越しの際は、是非御賞味ください。<https://ja-jp.facebook.com/tatttyhoneku>

●県産食材プロモーションを香港で集中的に展開

・11月6日から11月8日の3日間、香港コンベンション&エキシビションセンターにおいて開催された「香港インターナショナル・ワイン&スピリッツ・フェア2014」に、県から中野BC 株式会社が出展しました。

今月の和歌山県政トピックス

・今回の出展は、県が昨年、香港貿易発展局と都道府県としては初めてとなる経済協力促進を目的としたMOU(覚書)を締結したことによるものです。また、県では、県産日本酒・梅酒の販路開拓を目指し、出展事業者の商談支援を行うとともに観光パンフレットの配布等により観光PR活動も行いました。



・38の国と地域から約1,000社・団体が出展、約5万人が来場し賑わう中、“食の源流「おいしいわかやま」”を売り込みました。さらに、この機会を捉えて、香港の主要メディアとも連動し、日本料理店や日本酒BAR、人気カフェとタイアップしたメニューを展開するなど、県産品プロモーションを集中的に展開しました。

●「ココ・カラ。和歌山フェスティバル2014」を開催しました！！

・11月22日から11月24日の3日間、県とJAグループ和歌山は、県産農産物の魅力を全国へ発信することを目的に、JR有楽町駅前地上広場(東京都千代田区)において、「ココ・カラ。和歌山フェスティバル2014～わかやまハーベストマーケット～」を開催しました。



・11月22日のオープニングセレモニーでは、下副知事が、「旬を迎えている“みかん”と“柿”は日本一の生産量であり、その“美味しさ”を是非味わっていただきたい。」と県産品の魅力を伝えました。

・広場に設置された特設ステージでは、物産や観光のPRのほか、和歌山県出身の歌手 田川 寿美さんによるトーク&生ライブ、モデルの 阪井 あゆみさんや元プロ野球選手の 吉井 理人さんによるトークショー、テレビショッピングの実演販売でおなじみの 久寿米木勝さんによる県産農産物のPRパフォーマンスなど、多彩な催しが繰り広げられました。

・期間中、会場内では、最盛期を迎えたみかんや柿をはじめ、野菜、花、加工品などが特別販売され、さらには、銀座周辺レストランでも県産食材を使用したフェアを開催するなど大勢の人で賑わいました。

●県内小学校へ「魚」を提供しました

・すでにお知らせしてきましたが、県では、和歌山のおいしい食材を子どもたちに知ってもらう地産地消の取組として、県内小学校・特別支援学校の給食や家庭科等の教材として使用する主要農水産物の提供を行っています。



・その第4弾として、11月下旬から2月下旬にかけて県内の国公立小学校202校及び特別支援学校10校に「魚(サバ、アジ)」を提供しています。

・また、県職員が以下の学校に出向き、「魚の上手な食べ方」等について、子どもたちに説明する出前授業を行いました。この授業では、子どもたちに魚の骨自体に興味を持ってもらうため、生物の骨の進化や骨格標本を用いて構造などを説明し、さらにどの骨に注意すれば上手に食べられるかなどを教えた上で、実際にアジ丸ごと一匹を食べてもらいました。

・出前授業を受けた子どもたちは、「初めてアジを丸ごと食べたけど、とてもおいしかった。」「魚の骨の取り方がわかったので、この方法で食べるようにしたい。」と話すなど、大盛況でした。

実施日	実施校名	実施日	実施校名
11月26日	日高川町立笠松小学校 新宮市立三輪崎小学校	12月4日	日高川町立三百瀬小学校 田辺市立三栖小学校
11月27日	日高川町立川辺西小学校	12月18日	和歌山市立貴志小学校
11月28日	有田川町立西ヶ峯小学校 那智勝浦町立勝浦小学校	1月16日	田辺市立本宮小学校
12月1日	九度山町立河根小学校	1月27日	那智勝浦町立市野々小学校
		1月30日	新宮市立王子ヶ浜小学校

●「IFFT／インテリアライフスタイルリビング2014」に県内企業が出展

・11月26日から28日の3日間、東京ビッグサイト(東京都江東区)において開催された「IFFT／インテリアライフスタイルリビング2014」に、県内企業7社が出展しました。この見本市は、国内外からの家具・デザイン・インテリア製品が一堂に会する国際見本市であり、世界に向けて「ライフスタイルを提案する」インテリア・デザイン市場のための見本市として、平成20年から東京で開催されており、和歌山県ブースとして集団出展するのは昨年に引き続き2回目となりました。

・全体で391社の企業が出展し、約1万6千人の来場で賑わう中、県内からの出展企業も自社製品を大いにPRし、販路開拓のために多くの商談を行いました。

企業名	所在地	主な出展製品
(株)インテリックス	和歌山市	スタイルカーテン(デザイン性を追求したカーテン)
(株)嶋本木工所	和歌山市	紀州材ひのきを用いた家具調キッチン及びキッチン収納
(株)東建具工作所	和歌山市	エコハコ(ドアに使用する高品質な素材を使用した収納・家具)
山本製作所	かつらぎ町	Puzzle(ステンレスを組み合わせた家具、什器)
河合漆器産業(株)	海南市	インテリアアートパネル
池田清吉建具	橋本市	紀州高野組子細工
中西工芸(株)	海南市	漆塗りガラス器、漆器蒔絵文様の文具

●「田辺スポーツパーク」オープニングセレモニーを開催

・11月2日、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会に向けて整備を進めていた「田辺スポーツパーク」陸上競技場と体育館が完成し、県と田辺市が共催でオープニングセレモニーを開催しました。

・仁坂知事は、「来年の9月26日から紀の国わかやま国体、それから障害者スポーツ大会のビッグイベントを迎えますが、素晴らしい

競技場ができて本当によかった。」と挨拶し、真砂田辺市長も、「この三四六のエリアに一大運動公園を造るといふ夢が現実となったことを皆さんと喜び合いたい。」と挨拶しました。その後、テープカットが行われ、人工芝冷却用ミスト実演やきいちゃんフレンズによるダンスなど、両大会のPRも行われました。

・この施設は、老朽化していた旧南紀スポーツセンターをリニューアルしたもので、国体では正式競技としてサッカー少年男子、ボクシングが、デモンストレーションスポーツとしてインディアカ、キンボールスポーツが実施されるとともに、大会ではバスケットボール知的障害が実施されます。両大会開催後も、紀南地域におけるスポーツ振興の拠点として活用されることが期待されています。



イベント情報(12月11日～1月10日)

期間	行事名	場所	問い合わせ先
12/14 12/21	サンタが大水槽に やってくる	海南市・県立自然博物館	県立自然博物館 073-483-1777
12/18	しまい観音厄除開運 大根炊き	和歌山市・紀三井寺	紀三井寺 073-444-1002
12/31	時鐘堂除夜の鐘つき	和歌山市・岡山	和歌山市教育委員会 073-435-1194
12/31	大松明押し	かつらぎ町・下花園神社	かつらぎ町花園支所 0737-26-0321
1/1	獅子舞	海南市・藤白神社	藤白神社 073-482-1123
1/2 1/3		田辺市・近露王子	中辺路町観光協会 0739-64-1470
1/2		和歌山市・和歌浦天満宮	和歌浦天満宮 073-444-4769
1/2	書き初め大会	海南市・春日神社	春日神社 073-483-7547
1/2	新春かるた大会	和歌山市・玉津島神社	玉津島神社 073-444-0472
1/3～ 1/5	初詣初笑い神事	日高川町・丹生神社	日高川町まちみらい課 0738-22-2041
1/3	お弓神事	日高川町・下阿田木神社	日高川町まちみらい課 0738-22-2041
1/5	地主神社の粥占い	上富田町・地主神社	地主神社 0739-47-0788



県の無形民俗文化財に指定されている藤白の獅子舞は、熊野詣でが盛んな頃、神前で奉納された里神楽が起源だと言われており、能楽を思わせるような優美な動きが見どころです。
笛と太鼓と囃子に合わせて、金の獅子頭を激しく振りながら、天狗と戦う様を演じています。

自然・風物情報(12月中旬～1月上旬)

時期	自然・風物名	場所	問い合わせ先
12月中旬	熊野本宮大社で 大しめ縄張替え	田辺市・熊野本宮大社	熊野本宮大社 0735-42-0009
12月中旬	ポンカン狩り始まる	串本町・四季彩園	串本町観光協会 0735-62-3171
12月中旬	ウツボ天日干し	紀南地方沿岸部	和歌山南漁協 0739-55-2002
12月中旬	クリスマス用イチゴ 出荷ピーク	紀の川市・貴志川町	J A紀の里 0736-77-5666
12月下旬	那智の滝ライトアップ 那智の滝で大しめ縄張替え	那智勝浦町・熊野那智大社	熊野那智大社 0735-55-0321
12月下旬	和歌山城のしめ縄飾り	和歌山市・和歌山城	和歌山城管理事務所 073-435-1044
12月下旬	葉付きミカン出荷	有田市・千田	J Aありだ 0737-53-2311
12月下旬	葉ボタン出荷	紀の川市・名手市場	J A紀の里 0736-75-2564
1月上旬	デコポン収穫始まる	田辺市・上秋津	J A紀南 0739-23-3450
1月上旬	初泳ぎ	田辺市・ 田辺扇が浜海水浴場	田辺市教育委員会 0739-26-4907



主に紀南地方で栽培され独特の風味を持ったポンカンは、収穫後に追熟することで、さらに深みのある独特の甘みと風味が増します。また、ジュースに搾ると濃厚な甘味と風味が味わえます。

(平成23年産ポンカンの収穫量)

順位	1	2	3	4	5	6
都道府県名	愛媛県	鹿児島県	高知県	熊本県	宮崎県	和歌山県
収穫量(t)	11,650	4,831	2,795	2,057	2,028	1,461
収穫量割合(%)	39	16	9	7	7	5

～編集後記～

12月に入り、全国的に厳しい寒さに見舞われていますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。少し前に、かつらぎ町を抜け高野山を訪れた際は、四郷では家々の軒に吊された串柿がオレンジのカーテンのようで、また紅葉も色鮮やかで素晴らしく秋の深まりが感じられましたが、師走の声を聞くと同時に一気に真冬が訪れたようです。

県内では、すでにインフルエンザの集団感染により学級閉鎖となった学校もあり、インフルエンザの流行が例年よりも早いようです。私も急いで予防接種をしましたが、皆さんも健康にはくれぐれもお気をつけください。

さて、11月30日には知事選挙も終わり、仁坂知事による三期目の県政がスタートしました。登庁式において、一期目は「さあ仕事だ。」、二期目は「また仕事だ。」と挨拶した知事は、三期目の今回、集まった職員らに向かって「またまた仕事だ。」と言いました。解決すべき多くの課題がある和歌山県では、改革の手を休めている暇はありません。県庁一丸となって防災・減災対策、高速道路等の整備、少子・高齢化対策などの取組を進めて参ります。

今回の選挙では、県や市町村において盛んに投票の啓発を行いました。残念ながら、投票率は39%余りと低い数字となりました。12月14日には、衆議院議員選挙が実施されます。投票は、民主主義の原点でありますので、皆さんも大切な一票を無駄にすることなく投票にお出かけください。

早いもので、今年も残りわずかとなりました。今月号でお知らせしましたが、高野山が世界20選に選定、白浜のパンダの赤ちゃん出産、(株)早和果樹園の農林水産大臣賞受賞、「紀州梅バーガー」の日本一、と多くの嬉しくおめでたいニュースをお届けすることができました。来年も明るい話題を、わかりやすくお伝えして参りたいと思います。

少し早いですが、今年も「和歌山だより」を御愛読いただきましたことに感謝申し上げます。おかげさまで、今号で80号を迎えることができました。来年も引き続きよろしく願いいたします。

知事室秘書課長 森田 康友

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等をお願いします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2014年(平成26年)12月 NO.80

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022